

明治元年十二月十一日より明治元年十二月十五日まで

P8310806right

上様、午前御帰城被遊々、清水港木村霞、宿来るに寓を問う凶にす、同姓薫の寓に至り□□は不在の趣を聞得るにより伝言を托し返る途中霞□に邂逅す、□□立談薄晩帰宿

十一日寅 陰漸晴

途中江連に面会し過日借受し横浜結社規則書写を返す、鶏衛へ行き結髪を頼み小品を携ふ、亀井来り□□結髪渡せし儀、報告し呉る旨也

十二日卯 晴

石野江連同道来る、談話時を移す、太郎を携へ近辺出行、本日当宿

鳳輦御宿泊にて、市中警備厳粛

十三日辰 陰午下雨

P8310806left

山梨より鶉(うずら)味噌一□を贈らる、同人二男木や儀右衛門(酒造家なり)なるもの初て来り面す、右酒造株貸渡し

儀に付、大宮本舗へ案内随行いたし度趣申聞る、昨石野来り咄しの趣も有しに付、其段談として同人

仮止宿極楽へ行し処不在故、一書を遣し空敷(むなしく)帰る、旅亭より麦飯芋汁を一同贈らる、

山梨方へ

石野来り招待せられて一杯を把(*1)る

十四日巳 雨意漸晴

織田泉州へ行き太郎儀に付、頼み談し□く、宮原へ過日来問の報に行き面す、鶉飼来る砂糖組合加入の儀頼聞る、旅亭へ昨謝として鶏卵を遣す

十五日午 晴□

山梨志願場所望の儀山本へ談有し度旨頼聞る、鶏衛へ行き前書山梨よりの談を伝え、但

*1:把(は)、把酒(はしゆ)、酒杯をとる

□印は解説未了の文字です。私の実力ではすぐ解説できません。